

参考資料 13 基盤整備（表土扱い）後の水稻の施肥と土壌管理

水田土壌型	初 年 度	2 ～ 3 年 目	4 年 目 以 降
黒ボク乾田	◎土づくり肥料（10アール当たり） 珪酸資材 200kg、ようりん 60kg 施用する。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。
黒ボク湿田	◎施肥 窒素＝基肥 5～8 割減、追肥で出来ムラの解消を行う リン酸＝5 割増。加里＝5 割増	◎施肥 盛土部では基肥窒素 2～3 割減 切土部では標準量にもどす。	◎施肥 黒ボク湿田では乾田化に伴って窒素量を増やす。
棚田粘質乾田	◎土づくり肥料（10アール当たり） 珪酸資材 200kg 施用する。北部高冷地ではこのほか、ようりん 60kg 施用する。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。
平坦・谷間粘質乾田	◎施肥 窒素＝基肥 8～10 割（無施用）減、追肥で出来ムラの解消を行う。 リン酸、加里＝標準。	◎施肥 基肥窒素 2 割減とし、追肥で出来ムラを解消する。ほ場整備後に地表水の排除が困難になったものは、基肥窒素量を更に減する。	◎施肥 標準施肥量にもどす。
棚田粗粒質・礫質乾田	◎土づくり肥料（10アール当たり） 含鉄資材 400kg 施用する。北部高冷地ではこのほか、ようりん 60kg 施用する。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。
平坦・谷間粗粒質乾田	◎施肥 窒素＝基肥 4～6 割減、追肥で出来ムラを解消する。 リン酸＝標準。加里＝2 割増	◎施肥 標準施肥量にもどす。	◎施肥 標準施肥量にもどす。
棚田粘質湿田	◎土づくり肥料（10アール当たり） 珪酸資材 200kg 施用する。北部高冷地では、ようりん 60kg を併せて施用する。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。
平坦・谷間粘質強湿田	◎施肥 窒素＝基肥無施用、追肥で出来ムラを解消する。 リン酸＝標準施用。加里＝標準～2 割増	◎施肥 基肥窒素を 2 割減とし、追肥で出来ムラを解消する。	◎施肥 標準施肥量にもどす。乾田化につれて増施する。
平坦・谷間粗粒質強湿田	◎土づくり肥料（10アール当たり） 含鉄資材 400kg を施用する。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。	◎土づくり肥料 「参考資料 11 土づくり肥料の施用法」に準ずる。
平坦・谷間粗粒質半湿田	◎施肥 窒素＝基肥 6～8 割減、追肥で出来ムラを解消する。 リン酸＝標準施用。	◎施肥 標準施肥量にもどす。	◎施肥 標準施肥量にもどす。乾田化につれて増施する。

(注) 1 有機物は標準量（栽培基準）施用するが、北部地帯ではほ場整備後、一時的に排水不良となった水田では稲わらの施用を避ける。

2 表土を積みあげていた場所では（表土扱いのため）特に窒素が発現し、倒伏しやすいので基肥窒素は施用しない。